

愛視協だより

発行 愛知県視聴覚教育研究協議会

事務局 名古屋市東区東桜1-13-3

NHK名古屋放送局内

TEL (052) 952 - 7293

第57回 東海北陸地方放送教育研究大会 第51回 愛知県放送教育特別研究会

研究主題 「未来を拓く学びの場を創造しよう」

開催日 令和元年8月23日(金) 会場 ウィンクあいち(愛知県産業労働センター)



開会行事ならびに講演のようす



令和元年度 校種別県大会 第51回 愛知県学校視聴覚教育研究大会

主 題

子どもの心に寄り添う「わかる・できる・楽しい」授業づくり
—すべての子どもたちのために、ICTを活用した支援のあり方の研究—

会場：豊橋市立二川南小学校・二川中学校 開催日：令和元年10月30日(水)

記念講演会 プログラミング教育への取り組み — 2020年新学習指導要領 完全実施に向けて —

講 師 情報通信総合研究所特別研究員 平井 聡一郎 氏

2020年4月から全国の小学校において新学習指導要領が完全実施される。新学習指導要領に盛り込まれたプログラミング教育とは、実際にどのように行っていけばよいのか。文部科学省ICT活用アドバイザー・総務省プログラミング教育事業推進会議委員を務め、小学校プログラミング教育の指導に取り組んでいる平井聡一郎氏を迎えて、講演が行われた。

まずはじめに、スクリーンには大きなQRコードが表示された。参加者がQRコードをスマートフォンで読み取ると、アンケート集約ができるサイトが表示された。そのサイトで、プログラミング教育と聞いて思い浮かぶことを入力してみると、スクリーンには次々と入力した意見が集約されて表示されていった。「瞬時に、別の場所にいっても、意見が集約できて記録もとることができる。この事例のように効率の良さがデジタルの良いところである」という紹介からはじまり、なぜ今プログラミング教育が必要なのかという話題へ話は展開していった。

日本が今後世界と競争していくためには、教育が重要な鍵となる。世界の共通言語は英語であり、世界とコミュニケーションを深めるためには英語教育は欠かせないとのことから、2020年度より小学校でも英語教育が始まる。

また、ロボットやAIが社会の中で活躍する時代を生きていかななくてはならない子どもたちは、特別なスキルを身に付ける必要がある。AIが仕事に導入されていくと、いくつかの職業はなくなっていくかもしれないと言われている。その中で、「コミュニケーション能力・クリエイティブ能力・スペシャリティ」が必要とされる職業は今後も残っていく職業であると考えられている。しかし、この能力を身に付けるには、従来の学校教育では難しい。勉強から学びへの変化が必要であり、新しい学習が必要になる。

従来型教育は「読む・聞く」が学習の中心であったが、子どもが情報発信するアウトプットを中心に考えることで、授業を変えることができる。そして、インプットしたものをアウトプットして終わりではなく、それをもう一度フィードバックすることで、微調整したり、方向修正したりする試行錯誤する活動につなげていく。このような学習の流れができることで未来型のスキルが身に付いていく。この学習の流れは、プログラミング教育にとっても合っている。コンピュータを使ってデジタルのプログラミングをしなくても、アンプラグドのプログラミング教育で十分な成果が上げられるということであった。

文部科学省では、プログラミング教育実施のために、ポータルサイトなどを通していくつかのプログラミングの授業展開を提案している。来年度からの実施に向けて、まずは先生が体験してみることが大切であり、授業で実施してみることが重要である。様々な手法があるので、ぜひ現場で試してほしいという言葉で講演は閉められた。

第1部会 「感じる心を育てる部会」

提案者 森部 大悟（名古屋市立稲西小学校）

助言者 杉山 祐子（中部学院大学短期大学幼児教育学科）

提案では、児童がザリガニの様子をデジタルカメラで撮影し、NHK for School「しぜんとあそぼセレクション『ざりがに』」を視聴した後、話し合いをする一連の活動の中で、いろいろな観点でザリガニを見ることができ、児童が大切にザリガニの世話をできるようしていく実践が発表された。

協議では、「NHKコンテンツは学習意欲の喚起に有効であること」「デジタルカメラの撮影の仕方やどんな時に有効かは、事前に児童に教えておかないといけないこと」「NHKコンテンツは学びの視点を押さえる、単元のまとめの場面では難しいこと」などについて話し合われた。

発表の後、助言者からは「『感じる心』とは『社会とつながっているか』までを考えることが大切である」「直接体験よりも間接体験が有効なことは、今、見られないもの（離れた世界、科学のこと、過去のこと）が見られることである」という助言があった。



第2部会 「デジタルコンテンツ活用部会」

提案者 岩田 智文（江南市立西部中学校）

齋藤 聡（碧南市立南中学校）

沼山 泰幸（名古屋市立白鳥小学校）

飯田 淳一（金沢市立森本小学校）

助言者 余合 久恭（名古屋市立上野小学校）

提案1では、NHK for Schoolのプレイリストを活用した反復学習の実践について報告された。生徒が家庭でスマートフォンやデスクトップPCで番組を視聴して学習を行い、予習や復習の際に、自分が納得するまで繰り返し番組を視聴することができた。プレイリスト機能による家庭での学習は、番組を探す手間がなく、繰り返し視聴することができるため、学習が苦手な生徒も意欲的に課題に取り組み、学校で話し合いに参加することができた。

提案2では、デジタル教科書を活用した、数学の実践が報告された。デジタル教科書のアニメーション機能や、シミュレーション機能を活用することで、理解を深め、小集団で自分の考えを説明したり、生徒がICT機器を活用したりする場面を設けることで、数学的な考え方を身に付けることができた。

提案3では、プログラミング的思考を育むアンブラグドの実践が報告された。NHK for School「Why? プログラミング」を視聴し、最も効率のよく順序通り動くことの大切さを知ることから「順序」について考え、それを守ることの大切さを伝えた。番組の視聴後、朝の準備や、児童が体操服に着替える際、どのような「順序」で準備や着替えをすることで、最も効率がよいかを考え、児童の身近な体験を通して、プログラミングを学ぶ実践が報告された。

提案4では、ビジュアルプログラミングを取り入れた算数科の授業実践が報告された。実践報告では、教師が作成したプログラミング教材として、数字を入力すると公約数を見つけることができるプログラムや、通分を視覚的に理解することができるプログラムが発表された。プログラミングを児童に作らせることも大切だが、まずは教師が自作教材をプログラムすることや、言葉の力や数学的な概念、事象の関係をイメージする力を身に付けさせることが重要であると報告された。

助言者からは、「NHK for Schoolや、デジタル教科書などのコンテンツを活用することで、教材研究の時間を効率よく取ると同時に、子どもたちがより理解できる授業をつくることができる。子どもたちの学びの中に、デジタルコンテンツを上手に取り入れ、これからの教育をよりよいものにしていただきたい。」との助言があった。



第3部会 「情報モラル研究部会」

提案者 糸井 智之（名古屋市立柴田小学校）

梶田 圭一（半田市立亀崎中学校）

太田 尚志（岡崎市立北中学校）

江戸 義直（敦賀市立気比中学校）

助言者 安保 利秋（名古屋市立諏訪小学校）

提案1では、NHK for Schoolの番組を活用した実践が報告された。

昔話法廷「舌切り雀」を題材に、有罪か無罪かを話し合う活動や、修学旅行で自分が行きたい場所をハンドブックにまとめる活動を行い、その中で話し合いを深めていった。相手の考えを自分の考えに取り入れて、自分の考えを深め、分かりやすくまとめることができる力が身に付いた。

提案2では、情報モラルが守られる社会を作ろうとする児童生徒を育成するために、モラルカリキュラムを作成し、それに基づいた均一な情報モラル教育の有用性について報告された。系統的な指導により、情報モラルの育成に効果が見られた。

提案3では、AIとの共生をテーマにした「さよなら、あい」という自作の資料をもとに、AIとの関わり方を考えることで、超スマート社会を主体的に生きようとする生徒の育成について報告された。

提案4では、お互いが書いた俳句を相互評価する活動や、SNSの危険性について考える活動を通して、自分が発信する「言葉」について考え、情報社会の中で自らよりよいコミュニケーションを築こうとする生徒の育成について発表された。

助言者からは「情報モラルとは、すごく広い範囲を表す言葉で、教えたり教わったりするものではなく、身に付けるものである。」「新たな情報機器に潜む危険性に気を付けなければいけない。」という助言があった。





第51回愛知県学校視聴覚教育研究大会

令和元年10月30日（水）、第51回愛知県学校視聴覚教育研究大会が、豊橋市立二川南小学校・二川中学校にて開催された。今回は、特別支援学級、通級指導教室を含む22学級における授業公開（二川南小学校）と、全体会並びに記念講演（二川中学校）が行われた。

【二川南小学校の研究について】

1 研究主題

子どもの心に寄り添う「わかる・できる・楽しい」授業づくり
～すべての子どもたちのために、ICT機器を活用した支援のあり方～

2 めざす子どもの姿・研究の仮説

〈めざす子どもの姿〉

- 学習に興味・関心をもち、自らすすんで学ぼうとする子
- 自分の考えを表現したり、他者の考えを取り入れたりして、「わかった」「できた」「楽しい」と感じることができる子

〈研究の仮説〉

特別支援教育の視点をもとに、子どもの実態を把握し、子どもの心に寄り添い、個から発想した授業づくりや個に応じた支援を行う際に、ICT機器を活用した授業を行えば、子どもたちは「わかる・できる・楽しい」と実感できるようになるだろう。

3 研究の実際（公開授業の例）

3年1組 社会科 「星はいくつ？スーパーミシュラン審査員になろう！！」

スーパーマーケットで見学したことを発表する場面において、子どもたちがタブレット端末で見学時の写真を提示しながら具体的に発表できるようにした。子どもたちは、提示された写真からスーパーマーケットで行われている数々の工夫について気付くことができた。また、授業の振り返りにおいては、「ほかの店にも同じような工夫があるのかな」と、新たな課題をもつことができた。

【記念講演について】

講師 日本福祉大学スポーツ科学部スポーツ科学科 教授 金森 克浩 氏

演題 「特別支援教育におけるICT活用」



第23回視聴覚教育総合全国大会 第70回放送教育研究会全国大会合同大会

第23回視聴覚教育総合全国大会・第70回放送教育研究会全国大会合同大会が、11月8日（金）・9日（土）の両日、東京都および埼玉県にて開催された。

8日（金）は、東京都内4か所（文京区たんぽぽ保育園、文京区立湯島小学校、文京区立茗台中学校、板橋区立志村第四中学校）と埼玉県さいたま市立浦和別所小学校の1か所で実践発表が行われ、NHK for Schoolや電子黒板、タブレット端末などを活用した多くの実践発表が行われた。

9日（土）は、東京都台東区立台東育英小学校にて、ワークショップ・セミナーや講演会、実践発表が開催され、参加者が熱心に研修に取り組む姿が見られた。

第36回 NHK杯 全国中学校放送コンテスト 愛知県大会

令和元年6月29日（土） NHK名古屋放送センター

6月29日（土）、県下から多数の参加者を得て第36回放送コンテスト愛知県大会が開催された。

「ラジオ番組部門」6本、「テレビ番組部門」6本、「アナウンス部門」41名、「朗読部門」50名の参加があり、日頃の練習の成果を競い合った。結果は、下記の通りであった。

ラジオ番組部門

- 優 秀** 梶山女学園中学校
「自閉症を考える」
- 優 良** 名古屋市立守山北中学校
「名前はいったいなんなんだ!？」
- 入 選** 岡崎市立北中学校
「言葉に気を付けよう！職場体験編」

テレビ番組部門

- 優 秀** 岡崎市立北中学校
「真実を隠すSNS」
- 入 選** 岡崎市立新香山中学校
「ササユリと共に生きる」
- 入 選** 愛知淑徳中学校
「3年後、私達は大人の節目を迎える」

アナウンス部門

- 最優秀** 愛知淑徳中学校 糸尾美乃里
- 優 秀** 南山中学校女子部 杉山 紋香
- 優 秀** 岡崎市立六ツ美北中学校 稲垣 愛
- 優 良** 金城学院中学校 勝岡 優奈
- 優 良** 南山中学校女子部 宇藤 美奈
- 優 良** 梶山女学園中学校 若松 春妃
- 入 選** 日進市立日進西中学校 大政 光司
- 入 選** 岡崎市立北中学校 堤 昂
- 入 選** 豊田市立朝日丘中学校 高島 陽菜
- 入 選** 名古屋市立神丘中学校 柘植 帆夏

朗読部門

- 最優秀** 南山中学校女子部 荒川 さら
- 優 秀** 海陽中等教育学校 道 一悟
- 優 秀** 南山中学校女子部 戸本歩乃花
- 優 良** 岡崎市立竜南中学校 稲垣 玲花
- 優 良** 名古屋市立神丘中学校 土肥 結奈
- 優 良** 名古屋市立守山北中学校 志水 彩夏
- 入 選** 梶山女学園中学校 鵜飼 詩奈
- 入 選** 日進市立日進中学校 川崎大維葉
- 入 選** 日進市立日進中学校 中井 彩乃
- 入 選** 岡崎市立竜南中学校 名倉ことは
- 入 選** 金城学院中学校 水野 莉世

第36回 NHK杯 全国中学校放送コンテスト 全国大会

令和元年8月16日（金） 東京・千代田放送会館

全国大会には、県大会で優良賞以上であった生徒が参加し、以下のとおり素晴らしい結果を残した。

アナウンス部門

- 入 選** 金城学院中学校 勝岡 優奈 南山中学校女子部 杉山 紋香